

# 濤川栄太の教育（人生）指針

## もくじ

### 「子育てはやり直しがきく」

- ・「人生も、いつでも、どこからでも、やり直しはききます」

### 親子の触れ合いと「親の5つの責任」

- ・「親の5つの責任」

### 「子どもは抱きしめて育てなさい」

- ・ホールディングには 7つの種類がある
- ・5つの基礎力

### 父・母の役割

### 乳・幼児期

### 子どもの“美点の狩人”になる

### 思春期・青年期

### 生涯青春

### 期待される人間像 25項目

### その他 教育的概念など

### 教師という仕事

### 濤川栄太の言葉

### 濤川栄太が好んだ言葉

### 濤川栄太の逸話・シークレットキャラクター etc...

## 「子育てはやり直しがきく」

「アインシュタインもエジソンも、そしてスピノザもフォードも、子ども時代決して優等生ではなかった。しかし彼等の親はわが子を丸ごと愛し抜き、その伸びる芽を信頼し続けた。愛しむ時も、厳しく叱る時も、子どもと共感・共生し得ることを歓喜した。その青空のような愛と信頼とぬくもりの心が、子どもの生命の底から安心感を引き出した。子どもはその安心感を分母として嵐に立ち向かい、課題や使命と格闘し、より巨大な安心感をふくらませた。伸びる、発展する、息吹く、創造する、やり直しする源泉は、いつも水々しい安心感でこそある。(『子育てはやり直しがきく』扉より)

『やり直し』の基本は、つまずいたところに戻ることです。」

どこでつまずいたかを知り、そこに戻って、そこからやり直すのです。遠回りのように一番近道なのです。

・「人生も、いつでも、どこからでも、やり直しはききます。」

「人生は、まさにやり直しの連続なのです」

**サッチャー元首相** 鉄の女といわれた、サッチャー元首相は、首相を辞める時「私は65歳です。私の人生は65歳から始まります」と語った。彼女は、首相当時「間違いだと気がついた時には、その場で改めます」と言い、実行していた。

**尾崎愕堂** 「76歳の時に、今までの人生は準備期間だった。本番はこれからだ」と言って、94歳まで国会議員を務めたのです。

## 親子の触れ合いと「親の5つの責任」

親子の触れ合いで大切なものが三つある。

第一は、「ホールディング」。生まれたわが子を、親がぎゅっと抱く。抱きしめられた子は、親が自分を必要としてくれるという自己肯定心を持つようになる。自己肯定心を持つと、他人の存在を認める他者肯定心が生まれる。それが、大事な、人間の信頼関係の基礎となる。

第二は、「リミットセッティング」。約束とか決まりを提示して、フラストレーションを起こした子に対して、欲求不満を乗り切れるように解決していく。

第三は、「デタッチメント」。子離れができないと、自立できない、社会での適応性も形成されない。

以下に、「親の5つの責任」を始め、教育の指針を記していく。

- ・ 研究と経験により、画期的な教育指針を発表

## 『親の5つの責任』 — (大人の場合、自己教育の指針になる)

### ①乳児期 (0~2歳) の「基本的信頼感」。

一人間関係の第一歩である母子関係に信頼感が築けるか、不信感を土台にして成長してしまうかどうか。それは、その後の人生の幸・不幸を分ける程と言われている。

この時期は、スキンシップで「安心感」をあたえる。「安心感、安心感、安心感、緊張感」という3:1の緊張感のリズム。一番いけないのが「絶望感、絶望感、絶望感、恐怖感」。これが高ずると自閉症の子をつくる。

### ②幼児前期 (2~4歳) の「自律心」。

一社会的な第一歩は、自分を律する「がまん」の心を、まず身につける。危なくないよう、電車などでうるさくしない、などやってはいけないことを教える。親がきちんと話すと子どもは理解できるものである。

### ③幼児後期 (4~6歳) の「自発心」。

一子どもが自分で何でもやってみたくなる気持を大事にする。遅くても、親は辛抱強く待つこと。忙しいからと、親がやってしまうと意欲をなくし、自発・自立の芽を摘んでしまう。そして、出来たことをきちんと評価する。「上手になったね」「がんばったね」など。

### ④小学校期の「勤勉性」

一何事も一生懸命やることを、日々の生活で体得させる。

- ・ 小学生時代に「一日というのは、かけがえのない一日」だという意識を植えつける。
- ・ 現状で精いっぱい頑張ること。(そこで親が、それ以上の欲を持たないこと)
- ・ 何が大切か。極論すれば受験に失敗してもいい。将来に伸びること、要は末広がり。
- ・ 勉強はおもしろいからやるだけではダメ。面白くなかろうとやらなければいけないことはやる。  
「面白くするのも自分の責任」であるという一面をしっかりと抑えることも大事。
- ・ 子どもの感性を磨くには、子どもが我を忘れてしまう程の経験をさせてあげることです。
- ・ 「勉強しろ！」と言ったらやらない。  
「限界に挑戦!」「学ぶ醍醐味をわかったら…」、ということを生活体験させる。
- ・ 子どもは、10歳までは母親の世界にいる。10歳からは父親の世界に入る。
- ・ 母性愛とは、子どもの「あるがままを」愛し、認め、受容すること。全体愛、許容愛、無限愛。
- ・ 父性愛とは、子どもの「あるべき姿を」提示すること。競争原理、人間の誇り、生きる厳しさ。  
「資格社会だから~した方がいい」など社会との関わり方、方向性を提示、示唆するなど。

### ⑤青年期の「アイデンティティの確立」

一「自分とは、何もので、何をしたいのか、何をするために生まれてきたのか」を常に自らに問うこと。自己を再確認し、迷いながらも突きつめて考えていくことで、しだいに心身

ともに安定してゆく。

何か伸びを見つけた時は、「社会に役立つ人間に育っていける」「君の生きている姿勢が素晴らしい」と褒める。成績が上がったと聞いたら「君のその努力は、将来すごい役に立つよ」「社会に出てからすごい仕事ができるよ」と励ます。

(以下、単行本「抱きしめる教育」サンマーク出版刊より引用)

この考えは、著名な心理学者ロジャース、ユング、アドラー、ピアジェ、フロイトなど数人の学者の理論を組み合わせ、多くの実践を経て私が導き出したものである。

すでに子育ての時期を終えつつある親がこれを聞くと、

「しまった。私は何も知らなかったの、子どもにこんなフォローをしてこなかった」

と思うかもしれないが、あわてないでほしい。これらのことが全部できている親など、百人中一人いるかいなかである。

気づいたときが、子育てを是正する分かれ道である。いつでもホールディングの心で見守っていけば、必ずよい方向へ向かい始めるものだ。(略) 幼児期にホールディングを受けられなかったとしても、そのマイナス面は、別の手だてを講じて補ってやればよいのである。

ホールディングが不足していたことに気づいたら、その分を今からやり直そうという心がけが大事なのだ。

※

①の「信頼感」がなければ、②の「自律心」は、芽生えない。7歳までに基本的信頼感、自律心、自発心を獲得できた子は、社会に適応する免疫力を持ち、自信と自立心が培われていく。その力が「学び、努力する」という「勤勉性」につながるのだ。

その延長線上に積み上げられた力が、他者との関わりの中で自己のあり方を見つめ直し、生きることや将来について深く考えるようになり、自己の「アイデンティティ」確立へと人間的成長を果たしていくことができる。

## 「子どもは抱きしめて育てなさい」

哺乳類の行動を見ていると、生まれた赤ちゃんをなめまわすという精いっぱい愛撫行動をする。母親は子どもを慈しみつつ、愛情を注いで体中をペロペロなめる。

これがじつはホールディングなのである。もしこの行為がなかったら、動物といえども情緒に異常をきたしたり、性関係を持てなくなったり、群れの中で協調できなくなるという弊害が表れる。(略)

人間は子どもをペロペロなめまわすわけにはいかないが、しっかりと胸に抱いて授乳するというのがこれに当たる。だから、ただ飢えないように哺乳瓶でミルクを与えておけばいいというものではない。

母親のぬくもりを感じさせるようにしっかりと抱くという行為は、哺乳類として絶対にやらねばならないことなのだと思う。ほしい。「やったほうがよい」とか、「できればやるべきだ」などというレベルの問題ではなく、「必ずしなければならないこと」である。

子どもの育成において、ホールディングなくしてはまともには育たない。と認識してほしい。ホールディングによって子どもは安心し、癒され、勇気を持ち、生きる力が増幅していくのだ。(略)

ただし、言っておきたいのは、ホールディングとは義務感から行うものではないということだ。本当のホールディングとは、ほとぼしる母性から湧き出るはずの行為なのだ。

だから、義務感から無理に行っても効果が表れにくいので、以下を読んで、どのような心がけで子どもに接するべきかを考えてほしい。

## ・ホールディングには 7つの種類がある

- ①身体で抱きしめる
- ②心で抱きしめる
- ③言葉で抱きしめる
- ④視線で抱きしめる
- ⑤振る舞いで抱きしめる
- ⑥関係性で抱きしめる
- ⑦祈りで抱きしめる

### ○その他

- ・まずは目を見て、ほめることからスキンシップへ
- ・言葉のキャッチボール、応答力を磨く
- ・初等教育は「一に励まし、二に励まし、三に励まし」
- ・自分で自分をホールディング
- ・〇歳から百歳まで、ホールディングは必要である。
- ・高齢者も、子どもたちと握手する、お化粧する、ぬいぐるみを抱く等も効果がある。

### ※（注）

（『抱きしめる教育』は中経出版から文庫本『子どもは抱きしめて育てなさい』として出版されています）

## ・5つの基礎力

### ①基本的な生活習慣の確立

挨拶「おはようございます」「ありがとうございます」「お元気ですか」「いただきます」

・・・日本史・人類史のエキスそのものともいえる味と力を持つ。

### ②道徳的判断力の獲得

因果観的心情・・・より良く・より美しく・より高く・より心豊かに生きる原因創造が幸福につながるといふ、素朴な勧善懲悪など。

### ③価値判断力の獲得

大志を抱け！・・・志のある子ほどがんばれるし、自省心が身につくし、価値判断力がつくということ。

#### ④社会的ルールを守る

ルールを守ることが自らをも守り、他人に対する思いやりの出発にもなるということ子どもに見つめさせたい。

そして教養というものが、所詮おもいやりや本物の愛の昇華に行き着くということを考えさせたい。

#### ⑤身の安全を守る方法の会得

発達段階に即してより具体的に、すぐその場でということを一考したい。

最後に宮澤賢治の言葉を考えてみたい。

「人間は自分のために生きなければ生きられないが、他人のために生きなければけっして幸福になれない」というもの。

国際化時代、地球時代の生命線的思想を五十年前に先取りしているとしか思えないのであるが…。

(すくすく家庭教育百科「特別寄稿」より引用)

### 父・母の役割

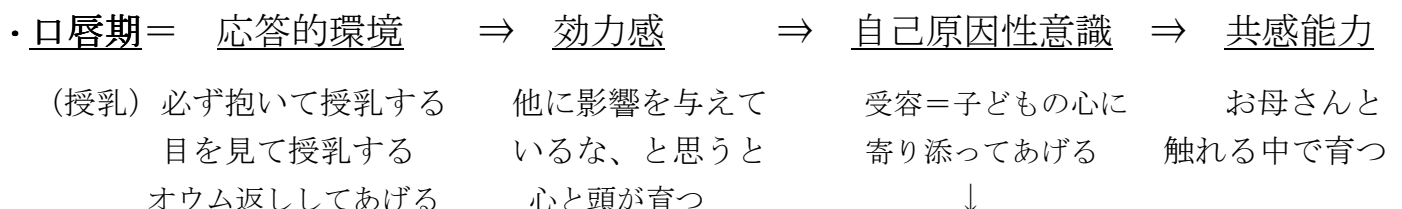
『今、父は子に何をかたるべきか』(ごま書房刊)より

1. 今、父は子に「感動」を語れ
2. 今、父は子に「仕事」を語れ
3. 今、父は子に「人生」を語れ

『今、母は子に何をかたるべきか』(ごま書房刊)より

1. 今、母は子に「愛すること」を語れ
2. 今、母は子に「生きること」を語れ
3. 今、母は子に「祈ること」を語れ

### 乳・幼児期



協調性愛他性が育つ



問題解決能力

・肛門期=スキンシップ。肝心なのは、形でなく心。

- ・すばらしい人間に育ってほしいという、“祈り”。
- ・心の教育、思いやりの深い人間に育てるには、スキンシップが不可欠。  
スキンシップは特効薬。
- ・寝る時に、触ってほしい。深刻に寝る。ついでに寝めない。
- ・叱るときは、子どものバイオリズムに合わせて叱る。  
せっかちな子にはせっかちに、ゆったりした子にはゆったりと叱る。
- ・非行少年が立ち上がるのは、愛。お父さんお母さんに“自分は絶対愛されている”という「自尊価値意識」を持っている子は、救われる。
- ・親の愛情を知らない子は、立ち上がろうと思っても滑り落ちてしまう。

・幼児期=3歳までに、心を育てる右脳教育をしておくこと

(芸術心・礼儀・思いやり・性格・情緒・判断力)。

- ・言葉をおぼえると、左脳(計算・分析・言語)が急激に発達し、右脳を圧倒してしまう。
- ・「三つ子の魂百まで」
- ・バロック音楽・クラシック音楽は、情緒を安定させる。
- ・夫婦関係の雰囲気大事。子どもは、雰囲気を全部吸収する。
- ・3歳から、集団欲が出てくる。第一次反抗期。
- ・6歳まで、遊びを通して“基礎的能力”をつける時期。  
みんなと遊べる、ひとりでも遊べる、孤独に耐えられる。  
遊び上手な子は、お手伝いをする子が多い。社会に出てから伸びる。
- ・小さな挫折、失敗経験をたくさんしている子は強い。
- ・さまざまな感情的・知的・体育的経験をさせる。

## 子どもの“美点の狩人”になる

まず、母親は子供の“安心感の基地”になってください。

小さい子供はお母さんの膝を基地にしています。三メートルしかいけない時は、三メートル行ってお母さんの膝にパッと戻ってくる。その距離をだんだん伸ばして行って、今度は五メートル、それが二十メートル、三十メートルと離れていく。子供にとって、いつでもお母さんのもとに帰れると

いう**安心感**があるから、**新しいことに挑戦し、自由に羽ばたける**のです。

ところが最近のお母さんは母性欠乏の方が増えていて、安心感よりも恐怖感を与えている。子供が膝にまわりつこうものなら、「なに鼻垂らしているの、スカートが汚れるでしょう」と。子供はお母さんのそばにいたいのに、それをうるさいと言われたら、どんな子に育ちますか。

子供が成長する過程で、**応答的環境**を作ってください。つまり、子供の質問を大事にしてやるんです。たとえば子供から「雪はなぜ白いの？」と聞かれて、うまく答えられなくても、「お母さんは理科が苦手だから、今晚お父さんが帰ってきたら教えてもらおうね」と、子供の質問を大切にする。それを「白いものは白いの！」とぴしゃっと言ってしまっちは、子供の好奇心は育ちません。身の回りのものにおののき興味をもつ好奇心から人間の創造性は育つのです。

そして母親のできる最大の教育的指導は子供をほめることです。母親は**“美点の狩人”**でなければなりません。**子供の美点を見つけて、ほめることが子供を無限に伸ばす**のです。私の母はほめ上手で、子供の頃の私は、大好きな母にほめられると大統領にでもなった気分でした。

私は小学校の教師だった時に、通信簿の他に**チャンピオン賞**というのを作っていました。たとえ勉強のできない子でも、誰もが一目置く長所をもっているものです。マラソンの速い子は**マラソンのチャンピオン**、掃除を一生懸命にする子には**掃除のチャンピオン**、人一倍思いやりのある子には**思いやりのチャンピオン**というようにチャンピオン賞を作って、**学期末に表彰**しました。子供たちは目を輝かせて喜んでいましたね。

私たちが生きる目的は、能力、人格、生き方すべての面において成長し続けることです。親自身が子供以上に成長していかなければ、子供は成長していきません。親がわが身を省みずに子供にばかり自分のエゴを押しつけていて、子供が成長するでしょうか。親自身が死の直前まで成長し続け、その成長した分、子供も成長するというくらいの決意が必要だと思います。

さらに私たち日本人には、**日本という国に誇り**を持ち、**世界に尊敬される国、感謝される国**になる、環境問題でも日本はその技術を生かして救世主となって**世界益、地球益に貢献**する**という気概**をもってほしいと思います。お父さん、お母さんもそういう**高邁<sup>こうまい</sup>な理想**をもって、自分の生き様を通して子供たちに**真・善・美・愛・聖・先祖を敬う心**を伝えながら、子供たちの心に**夢**を育ててほしいです。



## 思春期・青年期

(略)

思春期になると、子どもの心は急に親に厳しく反発します。

親の方からみて、一時わが子は地下に潜ってしまいます。

見えなくなってしまうのです。

これは、青年として独立していくのに不可欠なものでもあるのです。

対象離別心理なのです。

タテの人間関係を嫌悪するのです。

「自分のテンポ、自分の様式で生きていきたい」

と思う衝動は、あまりに強いのです。

そして、けっして親の目の届かないところで、自己の一生にかかわる経験や選択をしていることが多いのです。

これは、人間としてどうしてもくぐり抜けていかねばならぬ関所でもあるようです。

二十歳を過ぎた青年が、精神生活で母親にまだ依存しきっているとします。

これでは、発育万全ということではできません。

「ぬくもりと厳格」

を考えてしまいます。

そして、彼の生活曲線が頂点へ昇りつめかかります。

その時、彼はまた貴方の所へ帰ってくるのです。

そして、貴方の生活曲線が、少し下降線を描き始めたとします

その時、わが子は貴方に対して、いわば保護者のような態度をとりはじめることがあるのです。

これは、自然の成り行きなのです。

さあ、ここからが、貴方にとっての正念場なのです。

貴方に本物のゆとりがあるか、

ユーモアはあるか、

自信はあるか。

ということになってしまうのです。

もちろん、相性もあるでしょう。

しかし、よりポイントは、あなたが人生という生活舞台上、どれだけ一個の人間として鍛えられているのか、ということになってくるのでしょうか。

この頃のことです。

父親というものは、貴方の子にとって、近い仲間になってきます。

そして、抵抗の対象にもなります。

これも、人間形成上必要なことなのです。

乳児期からの人間的めぐりあいの中で、やはり大学期は一つの親子関係の完成期とっていいのでしょうか。

「行ってまいります」

そうやって家を出る、わが子の背中をよくみてほしいのです。

背中が光っているか…？

死んでいるか…？

泣いているか…？  
眠っているか…？  
沈んでいるか…？  
張りがあるか…？  
喜んでいるか…？

(略)

(『ほっとするね この本を手にとると…』より抜粋引用)

## 生涯青春

(略)

私も今、人生の半ばにさしかかっています。

そして、今ダンテの「神曲」の冒頭を思い起こしています。

「人生の旅路半ばに私は暗い森の中にさまよいこみ、まっすぐな道を見失った。あの野蛮な、過酷な、密林のことを語るのとは何とむつかしいことだろう。そのことを考えるだけでも私の恐れはよみがえる。死のほうにましと思えるほどひどいものだった」

あの天才ダンテにして、中年とは更に悩み多い時期ということなのです。

もちろん、青年期の迷いの多さも一応はおさまっています。

感情の波の起伏も、まあまあおさまっています。

「それなのになぜ……？」

ということになります、実にそういうものなのです。

ですから、人によっては、この時期を

「第二思春期」

と呼んだりします。

「思秋期」

という表現をする人もいます。

そして、

「向老期」

などと口にする人もいます。

「中年期の危機」

とのたまう思想家もいます。

一番成熟してくる時期において……。

現実適応へ油がのってくるこの時期において……。

老化を意識するのでしょうか。

成人病のきざしがあるのでしょうか。

家庭の問題でしょうか。

職業的問題なのでしょうか。

子どもたちが一人立ちしていきます。

二律背反の中で、親という名の愛しき者の脳裏に去来してしまうのは、

「この先どうやって……？」

なのでしょうか。

ここでの自己疎外感を感じた時がポイントなのでしょう。

孤立感を感じた時が大事なのでしょう。

その時に、ある意味で徹底した孤独意識をもってほしいのです。

孤立感にとどまっていたはいけないのです。

自らの意志で、

「一人立つ価値」

を感じる事なのです。

進んで一人で立っている、という思いを持てるかどうかなのです。

ここで、一人でいることの強さを思えるかどうかなのです。

一人でいることの弱さをも自覚できるかどうかなのです。

一人でいることの限界が一応は見えているかどうかなのです。

一人でいる時の、無限の広がりをも実感できるかどうかなのです。

この二律背反、この弁証法の上に立って、アウフヘーベンしつづけていける自己を創り上げることが大切なのです。

それが、一生を貫く生存目的を理解しつづけていく鍵にこそなるから、と思えてならないのです。

そこに、

「本当に自分がやりたいもの」

が見えてくるのです。

それが、結果として、今までやってきたことと同一であることだっていいのです。

一度脱皮した感性と眼で見直してみることに、実は意義と価値はあるのですから……。

「自分にとって本質的にいいこと」

が意識できるようになるのです……。

そして、人間というものの不思議を思ってしまう。

生理的に衰えや下降線を感じたりします。

その時の、心理的・内面的作動はいかなるもののでしょうか。

心的上昇カーブのエネルギー源の、膨らみを感じる人が多いのです。

人間というものが、環境だけに左右されて生きているのではないことを思い知らされてしまいます。

そうです。

自己と向かい合って生きている面がある、ということなのです。

ですから、オートメーションばかり勧める気になりません。

能率化ばかり語りたくないのです。

むしろ、ここから先は、心をこめた手づくりを推奨したいのです。

「自分の手でつくっている」

や、

「心の営みが確実にこの織物を織っている」

という実感こそが、豊饒たる充実感をもたらすと考えてしまうのです。

その意味でも、ぜひ中年まで生きてきた甲斐というものを噛みしめてほしいのです。

一つは、若い頃からの履歴書を大切にすることです。

一つは、心の中では、履歴書と訣別してほしいのです。

そして、新しい冒険の旅立ちをしてほしいのです。

自分なりのユートピアをおもいめぐらせてほしいのです。

そして、否定しつづけ、馬鹿にしつづけてきた子どもっぽさを、もう一度見直してほしいのです。

笑った時に、何ともこぼれるような童顔を出してほしいのです。

そして、何かに打ちこんだ時の、輝くような成熟と見識、貫禄と信頼感。

この、見事な統一を期待したいのです。

老には老で、それこそ「老価値」があるということはわかります。

しかし、一考しなければならぬことがあります。

それは、「老」でさえ、その原動力は「若さ」であり、「青春」であるという、まぎれもない事実を知悉するという事なのです。

(「ほっとするね この本を手にとると…」より抜粋引用)

## 期待される人間像 25項目

①挑戦＝何事もチャレンジ精神がなければ大成できない。ワクワク。チェンジング。チャレンジング。

「誠実に徹する時、人生に恐るるものなし」(トルストイ)。**前に進む時**と置きかえてもいい。

②貢献＝社会の為に尽くせば良い結果が生まれる。貢献性のない、会社はつぶれる、個人は伸びない。

③調和＝今最も大切な人の輪、社会の輪、環境の輪が自己を形成し、豊かな人間性を育成する。

調和には二つある。1.順応＝和：環境になじむこと・2.適応＝自分らしさ・個性を発揮すること。

④自己実現＝社会的自己実現&個人的自己実現。生きること、働くことが楽しい。今日一日精一杯生きる。

自己能力・自己主張で自分を試す機会を持つ。

⑤空想＝夢見る力のないものに生きる力もない。未来もない。一人の時間がないと魂の成長はない。

石原裕次郎は「夢に手を伸ばして、掴んだら夢ではない。また夢を持ち、手を伸ばす。そして手を伸ばしたまま、死んでいきたい」と語っていた。

⑥好奇心＝質と量が、優秀人か凡人かを決める。

ピカソ：90歳になってもデッサン、基礎を大切に。もっと知りたい、もっと知りたいと自ら創りあげたものを破壊し、追求し続けた。(創造的破壊)

**VSOP** ⑦V＝バイタリティ：生命力・意欲。元気・活力。学ぶこと、生きること挑戦。

⑧S＝スペシャリティ：一芸に秀でる。専門性。宇宙の中で誰にも負けないものを持つ。

⑨O＝オリジナリティ：独創性。桜は桜、百合は百合、バラはバラ、自分らしさを大事に。

⑩P＝パーソナリティ：二つある。この二つで生存権が保障される。

(1. 他人の幸せを心の底から喜べる人間＝心の天才。運勢がつく。

2. 努力する事が好きでたまらない人間＝頭の天才。才能が伸びる)

・運を味方にできるひと＝①陽性(明るい人・明るくふるまうのでも良い)

②馬鹿りこう(りこう馬鹿はダメ)⇒「賢ければボケ」

**6C**①C＝コミュニケーション能力—共感能力。人、社会、思想、感情、思い、境地がわかる。伝え合える。

②C＝クリエイティビティ＝独創性を持つ—創造力のある人間。

③C＝カルチャー＝文化性—文化とは耕す意。心を豊かに、より美しく、より高くを選ぶ。選び分ける。

文化は人間の生き方の追求。会話。ぺちやくちゃ、しゃべること。

④C＝コンセプト＝構想力を持つ—自分の概念をもって自己定義し、世界に誇れる日本人に。

⑤C＝コーディネーション＝調整力を持つ—統率力、管理能力。自分を捨てる部分も必要。活私奉公。

人を好きになる能力。物事の本質をつかめる能力。

⑥C＝カラフルネス＝多彩さ—多様性が求められる社会になる。社会の質を高める。

⑦先見性＝将来を見据えて先手を打つ。みんなで生き延びる。空想・観念ばかりを言っていたら社会は変わ

らない。先が見える人というのは、すべてにおいて鍛え抜かれた人。

⑱洞察力=不透明な時代こそものを見抜く力が不可欠。人の心、社会がわかる人に。苦労を重ねるしかない。

⑲識見=物を正しく判断する力。世の中を変える時代の到来。

⑳行動力=「人間に必要なのは、行動である」シャーロット・ブロンテ

「愛は言葉ではなく、行動です」マザー・テレサ

:日本の企業が何故強いのか。現場主義を貫いた。

㉑情熱=パトス。情熱は聖者の特権。情熱を注げば、希望もまた輝く。

㉒鳥と虫=鳥になって広い視野から世界を眺め、虫になって、自分の周りを見つめる(社員と一緒に働く)。

㉓ピッチャー&キャッチャー=投げ手、受け手と交替する。一方通行でない関係も持つ。

社長・管理職はピッチャー。「どんな球でも取れ！」だが、新入社員に「投げてみる！」。

社長・役員がキャッチャーになってみる「この速球はいいぞ！」。信頼関係が人をつくる。

㉔謝念=感謝の念は、宇宙エネルギーを吸収できる一番強力なエネルギー。

㉕陽転思考=ネガティブな時代だからこそ、物事をプラスに転換させて、思考し、行動し、実践する。

松下幸之助氏は「なぜ日本一の実業家になれたのですか」と問われて、

「体が弱く(感謝の念が生まれ)、学力がなく(人の話をよく聞き、本を読んだ)、

貧乏だったから(ハングリィになれた)」と答えている。

㉖本物の国際化・国際人=まず、日本を知り尽くすこと。本質的な日本を語れること。

世界との比較対比ができる。複眼思考。

## その他 教育的概念など

・**教育の目的**=自分で生き抜いていく力をつける。親はたとえ明日死んでも、生きていける子に育てる。

生きる力にならなければ、意味があるのか。

幸福になる手段を獲得させる。

巨大な再生思考能力を徹底して身につけさせることが、転移・創造的思考力に連動する

・**教育の究極**=「自分以上の人間に育てる」

・**教育の評価**=大人になった時、社会に出た時、どういう人間になるのか。

・**学力**=読み・書き・計算が基礎。

・読む力は、技能習熟。読解力は、論理的思考構造と関わらないとつかない。

語彙を豊かにすると、読解力をつけやすい。知識が豊かになるほど、知恵が湧く。

新しい概念を身につけるためには、生活体験が必要。=教えたり、教えられたり。

前提破壊能力、問題解決能力、共感能力。

・書くこと。わがままを克服。自らを見つめる。人生を見つめる。個性の突出化につながる。

子どもの、~をわかっている。~を知っている。~ができる。大まかな個性を知っていることが大事。それに応じた肥料を与える。

「日記を3年続けて書いた人は、将来何かをする人である。10年続けた人は、すでに何かを

やった人である」

・ **前提破壊能力** = 創造的破壊。

前提を破壊しなければ、更なるものは生み出せない。

創り出したものを破壊する勇気が必要。

・ **問題解決能力** = 知的能力を育てる。考え合う。話し合う。

生きる力。学力。国語の問題解決能力が他教科に転移していく。

家族が、家に帰って来た時、疲れの取れる家庭。団欒のある家庭環境が大事。

受容 = 子ども（家族）の心に寄り添ってあげる。

・ **共感能力** = **積極的共感**：相談に来たということが、解決の第一歩であるとみとめる。

**虚無的共感**：共感しているつもりで、共感になっていない。

- ・ しゃべらない対話：心と心のつながりのコミュニケーション。
- ・ 「感受性」「数」「記憶力」「推理力」「言語力」に影響する。
- ・ お母さんとの触れ合いの中で、共感能力が育つ。

・ **思考能力**

- ① **再生思考能力** をつけるには、**ドリル学習**をたくさんやると **問題解決能力**がつく。  
自分自身で能力を開いていける、分母となる能力。失敗を乗り越える体験。  
再生思考能力を徹底してつけると、あとは自分で伸びていく。  
「知識」は「知恵」に入る門。知識量の多い子は、知恵を湧かせる。

↓ その能力が、徹底的につくと、転移思考能力に変異する。

- ② **転移思考能力** 掛け算的な **能力開発**ができる（ $100 \times 100 = 10000$ の能力）。  
**読解力**によって身につく（言語・知識・成熟・技能的能力）。

↓ その能力が、徹底的につくと変異する。

- ③ **創造的思考能力** 人間の価値を、ここへ持ってくる。これが**教育の目的**。創造的人間。  
知識だけでなく、体験・体感としてしる。

・ **自ら意欲を引き出す**

- ① 明確な目標
- ② 自己決定
- ③ 目標へのプロセスへの自己決定
- ④ 自分の今の能力の範囲を見極めさせる
- ⑤ 責任感の意識化
- ⑥ 努力によってできるものを考えさせる

- ⑦行動の原因を自発的にする
- ⑧伸びる芽を自己発見する能力をつけさせる
- ⑨自発自主の快体験⇒効力感。手ごたえ、歯ごたえ。
- ⑩表現させる

・ **古典に学ぶ** **本物に触れる** (音楽・文学)

クラシック音楽が、子どもの情操を安定させる。

古典・名作文学に触れた子どもは、心が深くなる。考える力が出る。学力が伸びる。

・ **自己責任原則**=人間は一人では生きられないが、一人で生きていかななくてはならない存在。

自らまいた責任は、自らが刈り取らなければならない。誰のせいでもない、すべてが自分の責任であるという厳粛な事実を受け入れ、果たしていく。その姿勢こそが求められている。

・ **自己原因性**=自分が外界の現象の原因になっていきたいという気持ちを、うまく誘導し能力を伸ばす。

・ **自己肯定心**=自分は自分でいいのだ、やっていける、と自分自身を受け入れる心がアイデンティティの確立につながる。

・ **知徳体**=三位一体のバランスある成長が望まれる。感情的・知的・体育的経験。

・ **イメージ力**=頭の中に絵を描く力。読書を通じて身についてくる。

イメージしたことが現実になる。スポーツ・トレーニングでも効果を生んでいる。

・ **暗示力**=教育はある意味、暗示力。子どもに接する人は、つねに暗示をかけているという自覚を持つことが大事。子どもとの関わりあいの中で、どれだけ「伸びるよ」「大丈夫だよ」というプラスの暗示をかけられるのかが勝負。  
自分で自分に、プラスの暗示をかける。自己暗示が、自己教育力。

・ シェーマ=思考構造

・ ピグマリオン効果=無作為に抽出した生徒に「君たちはすごい能力がある」と期待をかけると、本当に思わぬほどの伸びを示すということを実験で証明した。

・ バクスター効果=植物に“うそ発見器”を取り付けて、実験をしていて、「燃やしてしまうぞ」と思ったら、以上に針が振れた。ところが、褒めると良く育つ。植物でさえ感情を読み取る力があるのだから、まして子どもは敏感に親の思いを感じている。

・ ローレンツ博士の観察=生まれたばかりのガチョウは、はじめて目にしたものを親と思い込んでしまう。人間の子どもの幼い時期に「刻印づけ」されたものは後々までも影響が大きい。

・ **人間が伸びる6つの条件**

- ①使命感得力
- ②陽転思考力
- ③対人感受力

④自己観照力

⑤意志継続力

⑥被投的企投＝（ハイデッカー）「人は生まれてくる環境は選べないが、もう一度生まれてきても又そこに生まれてきたいと思えるほど、自分のいる場所をユートピアにする」。偶然を必然にする。

## ・リーダーの条件

①状況掌握力＝世界の経済、社会、地域、家庭を把握する。環境問題、エネルギー問題、日本はどうか。人事管理をはじめ、お得意さんはどうか、所属する場はどうか、を把握する。

②情報収集力＝受け身（待っている）の情報、銀・銅。自らつかむ情報は、金・ダイヤモンド。

良い情報の集まる人：先に見える人。包容力のある人。人柄の良い人。未来性のある人。伸びる人。力のある人。お金の使い方に人格が出る。

③環境適応力＝経営も適応。すべては適応することが基本にある。

④士気高揚力＝社長・管理職の顔を見ると、やる気がでる、ファイトが出る！と言われるような人に。

⑤人心掌握力＝人の心をつかむ。部下（お得意さん等）の家族関係・嗜好・状況を知る。

⑥コンセプト＝考え方、哲学、信念、主体性。「自分はこれでいく！」というものを持つ。

もの分かりの良い上司だけの会社は迫力がない。

⑦意志貫徹力＝目標を定め、到達するまでやり抜く力。

## ・管理者＝5つの顔を持つべき

（企業講演より）

①哲学者（考える、フィロソフィカル）になる

②戦略家（ストラテジー）になる

③心理学者になる

④教育者になる

⑤演出家になる

## ・経営＝教育的立場からみた経営を考える

・プロフェッショナルとは、プロセス（経過を大事にする）プロでもある。

・経営は、種をまき続けること。真空の中では何も育たない。

・常に先んずる。人のやっていないことをやる。

・道なきところに、道をつくる。

・企業が1年判断を誤ると、10年遅れる。

・局地戦に勝つ。

・「血と汗と涙」＝「血」とは、ファイト。「汗」とは、努力。「涙」とは、心だと思う。

・「1に努力、2に努力、3に努力、4に努力、…100に努力」（ジャック・ニコラウス）

カメラマン「たいしたことないと思って撮った写真の中に、名作は1枚もない。凄い！と思って撮った写真の中に、何枚か良いものがある」。

・撤退する勇気。メンツにこだわらない。過去を捨て去る勇気をもつ。

・殿（しんがり）を務める。攻めるより1000倍むずかしい。家康・秀吉は見事にやり遂げた。傷口が大きくならないように。これができれば一流。



- ・「勇気・智恵・徳」。「徳」＝利他性。骨の髄からの思いやり。
  - ・企業とは、戦争と同じ。戦争の中から学ぶものはある。
  - ・「組織」はパイプ。血管の詰まりがいけない。
  - ・「活私奉公」＝私を活かして、活かして、活かし抜く、その中に本当の奉公がある。
  - ・「だまかし」が通る会社はつぶれる。
  - ・「未知に向かう喜び」がなければ、その会社はきびしい。
  - ・「城の石垣」は美しい芸術品。一つ一つの石の形が違う。その違った形がマッチして頑丈な石垣ができる。
  - ・「よく詰まった頭脳」より「よく働く頭脳」を。
  - ・自分を追い込める喜び＝目標を公言する“有言実行”。言いきってやり切る、男の勝負。
  - ・ビジョンを明示する。
  - ・「組織」＝組織が人を動かすのではなく、人が組織を動かす。
  - ・データを生かし抜く。そして、あとはデータを捨てる。
  - ・職場は「ネアカ・のびのび・へこたれず」。「ネクラ・委縮・すぐ参る」はいけない。
  - ・幹部のコミュニケーションは企業の生命線。
  - ・部下の家族関係を知ることが大事。秀吉は27万人、家康は29万人、覚えていたと言われる。
  - ・レーザーの言葉「執着心・根気」。根気は集中力。
  - ・「理念」も大事だが、「気迫」がなければ、コンセプトは吹っ飛ぶ。
  - ・「見ざる・言わざる・聞かざる」は、会社の敵。
  - ・無精しない。
  - ・部下の力をどう発揮できるか、を考えるのが管理職の仕事。
  - ・人を育てるのは、1に愛情、2に愛情。
  - ・人間関係＝上司・部下、同僚、夫婦、親子、友人、溶け合っている関係が一番強い。
  - ・自己原因性を培ってあげる。若手を育てるには、たまには間違ってもいいから自信をもたせる。
  - ・フットワークの良さ。
  - ・時代の流れを、体で感じる。
  - ・60%で決断できるか。→泥をかぶれるか。腹をくくれるか。100%賛成のものは、パンチがない。
  - ・約束は死んでも果たす。
  - ・「研究」も人脈。男の世界は人脈。
  - ・管理職は、“皆から、一瞬で見られている”、という自覚をもつ。
  - ・逃げ場のない「孤独」に耐えられるか、どうか。一人でいる時も、皆でいる時も楽しい！
- “生きる喜び”にあふれていると、皆が寄ってくる。
- ・父親の言葉「教育者・サービス業は、人を大事にするしかない。本物かどうか世間は見ているよ」。
  - ・仕事とは、海に魚を獲りにいくこと。
  - ・会社は社員が主役。社長・管理者は、演出家。

- ・ただのイエスマンは、奴隷。本心を言えるコミュニケーション。
  - ・一つの意見を大切に。
  - ・決断→「笑わば、笑え！」のスゴミがなければ。
  - ・絶えざる状況否定。永久に。状況を肯定した時、老化が始まる。
  - ・「意識革命・業務革命・制度革命・構造革命」を
  - ・変化する企業は安全。
  - ・人間は断崖に追い詰められないと、本当の解決策は出ない。
  - ・「常に出番」の態勢。仏教の「常に臨終」の思いで生きる。
  - ・リスクのない商売はない。
  - ・失敗した時、失敗の質を見届けること。
  - ・仕事に、自己表現・自己主張があるか。
  - ・行動となってあらわれない思考は、時によって無用で有害である。
  - ・自らが変化を起こす原動力になる。
  - ・「不自由よく人をつくる」。抑制があるからこそ芽が伸びる。不自由こそ人を伸ばす。
  - ・「不可能」。簡単に言うてはいけない言葉。困難とは違う。
  - ・うちの会社は安全、絶対大丈夫、と思ったら、必ず潰れる。
  - ・「負けに、不思議の負けなし」
  - ・善良なだけで、何もしない人間は困る。
  - ・「寝ている人間で、転んだためしがない」。大過なく…では。
  - ・悪いところをあげつらう、減点主義はダメ。
  - ・部下の発言に、拒否権を発動できる権限を持っていることも。
  - ・危険に近づいた方が、よく見えることもある。逃げない。頼らない。
  - ・「念ずれば花ひらく」と言いますが、悪い思いは、花を散らす。
- こちらが大して意に介さないことでも、相手は1000倍体感していることがある。  
その自覚を持って目下の人や部下に接してほしい。

## 世界的企業にした経営者の共通点

- ①積極的・情熱的に事に当たる
- ②すべて肯定的に受けとめる
- ③上司・先輩に進んで指導を受ける
- ④チームワークを大切にする
- ⑤常に可能性を信じて追い続ける

## 教師という仕事

教師志願の子に対するアドバイス（親からの質問に答えて）

今、日本社会では、教育論議はまことにかまびすしいくらいです。騒然としています。そして、その時、必ず語られる言葉は、教育は崩壊しているというものです。

たしかに、そういう要素はたくさんあります。多くの子どもが自殺したり、登校拒否したり、シンナーや覚せい剤をすったり、いじめが横行したり…。危機的状況という表現にすら、なれ過ぎてしまっている感さえします。

なんとか改善を重ねつづけて、より良い教育を志向しつづけていかなければなりません。ただ、教育というものを考えていく時に、気をつけていかなければならないことがあります。

それは、急いではいけないということでしょう。

教育の対象は、あくまで“人間”であり、学校教育においては、子どもです。この人間というものについて、こういうものだとか、～だという、把握についての過信を持つことは、きわめて非教育的であるという認識に立つべきであると、私は考えています。

フランスの教育者ジャン・ギットン是这样いいます。

「学校教育というものは、一点から一点への最長距離を教えるものです」

ここにある最長距離という意味を考える必要はあるように思えるのです。

教育というのは、今日の結果が明日にという性格のものではありません。見方によれば、教師の仕事について、甘い指摘されることもある訳です。ですから、手を抜こうと思えば抜けると外部から見る人もいます。この一点だと思うのです。だからこそ絶対手は抜けないと発想する人こそ、教師の適性のある人間なのでは、と考えてしまうのです。

「陰徳あれば陽報」という言葉がありますが、誰も知らない、誰も見ていない所で、ただ、ひそかに、子どもの幸福と人間的発展のみを喜べる心情の持主こそ、教師らしさなのではないでしょうか。(略)

今の日本の社会様相は、あまりにこの発想とは対極的なところにあるといわねばならないでしょう。

目立ちたがりもあるでしょう。“ひっそりと”を否定するものも多いでしょう。何でもスピードアップはないでしょうか。形のないものを信じる気風はあるでしょうか。損得抜きでもの思いは強いでしょうか。いや、それよりも、他人の幸福を心から祈れる心はあふれかえっているでしょうか。

吉川英治ではありませんが、やっぱり、花見る時は蔭の人の心的傾向性がなければ、教師をつづけていくことは辛くなるはずです。

子どもに人気のある先生がいます。それは、その要因として考えられる多くの理由はあるのでしょうか。しかし、ただ一点、共通点があるのです。それは、子どもの存在自体が目的と思えるところがあるのです。子どもがそこにいてくれるだけで「嬉しい」「ありがたい」という思いがあるのです。それが、子どもに通じていっているのです。

子どもは、「僕を受け入れてくれている」と思い、「私を前提として認めてくれている」「許してくれている」と感じられるのです。

この共感関係が本物だと、子どもは、「この先生の『許せないもの』は一体何だろう」と考え始めます。「この先生の『喜ぶもの』は何だろう」と思いめぐらせ始めます。そうなれば、しめたものなのです。

やはり、好かれることは、いいことなのです。そして、そこに、いたずらな迎合や、いたずらなへつらいがなければ、かなり質の良い教育性が成立していくのです。

ですから、教師という仕事は、それほど孤独であっては成り立たない仕事であり、それほど”孤独に耐えられること”を求められる仕事でもある訳です。

否、孤独でないことも、孤独であることも、喜べる心が要求される仕事であると、私は思っています。

ですから、最長距離という言葉には、多くの、数限りない要素があるのだと思います。

一点から一点の間に、プロセスに<sup>あた</sup>能うるかぎりの”想像性”を、子どもに抱かせることが大事なのでしょ

う。

能うるかぎりの” 夢” を、子どもに見させることが良いのでしょう。

能うるかぎりの” 事実” を、子どもに見つめさせるべきなのでしょう。

能うるかぎりの” 変化の可能性” を、子どもに探させることが好ましいのでしょう。

能うるかぎりの” 主体的な認識と判断” を、子どもに敢行させるのが必要なのでしょう。

能うるかぎりの” 思考” を、子どもの頭の中にはちきれさせ、駆けめぐることが求められるのでしょう。

能うるかぎりの” やさしい『愛』” を、子どもの心に湧き立たせることが子どものためになるのでしょう。

能うるかぎりの” 汗を流そうとする意志” を、子どもの精神の中につくりあげることによって心を砕くべきなのでしょう。

能うるかぎりの” いい汗かどうか自問自答する謙虚さと挑戦意欲” を、子どもの生命の中に培ってあげるべきなのでしょう。

能うるかぎりの” 生きることに燃える炎” を、子どもに点火してあげることでしょう。

能うるかぎりの” 美” と” 善” と” 真理” の光彩を、自らの信ずる思いと、流す汗と、誰人もとめることのできない” どうしようもない” 事実と真実とで、子どもに注ぎつづけることでしょう。

『教師』とは、そんなものだ、私は思っています。

(『子育ての難問26』日本経済通信社刊より抜粋引用)

## ◇「教師という職業は、印象にすぎない。」

すべてのものを忘れ去ったあとに残るもの、それが教師の仕事でしょう。

しかし、それを甘んじて「印象でいいのだ」と受け入れる心を持てるかどうか…。

## ◇教師は、教室にあっては、一国一城の主。

そして、聖職者であり、裁判官（正義価値の追求者）であり、哲学者であり、詩人であり、演出家であり、役者であり、父親であり、母親であり、保護者であり、看護師であり、労働者でもある。

## 瀧川栄太の言葉 (講演や時折りおりに話された言葉をアトランダムに掲載しました)

・懸命になると、夢の神様がひたむきな人の方へ寄ってきてくれるのです。

・「人生は一瞬一瞬が選択」常に困難な方を選ぶこと。

・人間は「安心感を食べながら」生きている。

・人類生き残りコンセプトは、”地球との共生“しかない。

・日本の素晴らしさは“合わせの哲学”。

・日本国は「自分」なんだ。

・”地球益・宇宙益”を考えて大きな目的観を持とう。

目的感(何の為に生きるか)を高めると

## 頭が1000倍良くなる

### 知恵が出る

それが、生き残る為のコンセプト。

- ・日本人は何もしないのが「平和だ」と思っているが、そんな生やさしいものではない。戦争がおこらないように準備（環境づくり）するのが平和。
- ・歴史は未来学である。
- ・”人を陥れない”ということが、”人間としての最低の歯止め”。天はそこを見ている。
- ・自己の非を認める時、天はその人を必死に守る。すべての改善はそこから始まる。
- ・「人間は自分の為に生きなければ生きられないが、

## 他人の為に生きる意志のない者は幸福にはなれない」

- ・人間的感性の鈍い人はこれからの世の中発展できません。  
“知感相応”を望みたい。それは知性と感性の両方を耕そうということの意味する言葉です。
- ・「人の役に立つこと」を喜びとする教育をしていかねば、国際社会で生き残れません。
- ・「人生には割引もなければ、おまけもない。自分のしたことがすべて返ってくる」
- ・「人を評価することは、同時に評価されるという厳しさを伴っている」
- ・格好つけている分、成長できない。
- ・人間の力とは、魅力がどれだけあるかである。
- ・「苦悩と格闘することなくして、人間の才能は決してその翼を広げない」
- ・これからは”才能と人格”の時代。これを磨いてあげる。
- ・常に**限界に挑戦**していくことが、人間を大きくする。
- ・子どもたちの目が、生きる喜びでキラキラ輝くような、社会をつくりたい。
- ・他人の幸福を考えることが、自分を大きくする。
- ・相手がどうこうではない。自分がどうするのか、が問題。
- ・人間の魅力とは、教養のエキスを絞ったものである。
- ・文化は放電、教育は充電であると思います。ですからどれだけ充電するか、は大きな問題でしょう。
- ・文化を離れた教育はないし、教育を離れた文化は発展しない。表裏一体のものなのです。
- ・本を読まない人は、知性・豊かな思考力が育たない。
- ・私は、これからの子どもに生きる天才になってほしいと思っています。  
それは、「努力する事が好きで好きでたまらない人間」。それと、「他人の幸福を心の底から喜べる人間」です。その子はどのような環境でも生き抜いていけます。生存権が保障されます。
- ・教育の目的は、人間として精いっぱい生きる幸福を感じ、自らの個性を爛漫と開花し、能力を出し切り、豊かな愛と、知恵と、創造性に横溢する人間性を獲得するところに、土台はあるのだ。
- ・大人はいつでも、いい話相手になってあげることが大事。
- ・自分が好きでたまらないものを、伸ばせ——という教育方針。好きなことに命をかける！
- ・子どもに投げかけてほしい言葉。

「あなたは宝物よ」「あなたの味方よ」「あなたは伸びる子よ」「大丈夫だよ」

- ・親が何かの苦境に立つ時には、子どももまさしくその苦境の中で苦を共にしているわけで、親は自分だけが苦しんでいると考えてはなりません。
- ・「鍛える・努力する・甘えさせる」をメリハリつけて。
- ・「優しい心」「強い心」「豊かな心」——弱いものを寄ってたかって大事にしていく雰囲気。
- ・親が嬉しそうな顔をしているのが、子どもは一番嬉しい。
- ・親、教師は“美点の狩人”になろう。
- ・「性格が良い」ということは、最高の財産である。
- ・「父親に誇りを持たない子は、才能が伸びない。

母親に誇りが持てない子は、心が育たない」

- ・才能とは、苦難をのりこえる中から生まれるもの。努力なくして、才能の伸びはない。優雅な白鳥も、水面下では、一生懸命足で漕いでいるように。
- ・「お父さんがいるとうるさい」と子どもたちが言わないよう、お母さんが工夫すること。「三界に家なし」になってしまいがちの男。
- ・すてきなお母さんは、いい教育力を持っている。その後ろには、男性的なお父さんが居る。お父さんが男性的な魅力に乏しいと、お母さんがかかあ天下になる。かかあ天下のお母さんだと、男の子はウジウジしたもやしっこ、女の子は中性化してシャモみみたいな子になる傾向がある。
- ・男の子は、兄貴分が必須。見本にして育っていく。

異年齢の関わりがあって、心が安定する。

- ・女の子は可愛がる。男の子は成就感をもたせる。よくやったね、がんばったね。とことん責任をもたせる。
- ・「子どもは親の面倒を見るのは当たり前。恩知らずはいけない」と言い切る。変な遠慮はしない方が良い。
- ・良いものを得るには、身を削る犠牲が必要。→つまり、お金がかかるということ。
- ・親子も、友情的関係を！
- ・子育てとは、決して人生の生きる手段ではなく限りなく目的に近い行為だと私は考えています。
- ・自分が愛されている、必要とされていると思える時の子どもの伸びは、それはすごい。
- ・“心からの満足”というものがなければ、人間というものは生きられないのだと思う。

“満足”や“生きる喜び”を知りえぬ者は、安易に“満足してはならないもの”を

見ることができないのでは、とも最近思う。

- ・多くの知識があれば、困難にぶつかったときに対処しやすい。また、本をたくさん読んでいけば、問題解決能力が高くなる。そして、一つでも熱中できる分野があれば、それを究めることで、ほかの知識や能力も引っぱり上げることができる。(単行本『抱きしめる教育』サンマーク出版刊より)

- ・自分が課題に挑戦し、充実感があると包容力が出てくる。教育力・包容力は、許すことから始まる。一番大事なものは、雰囲気、温かみ。
- ・人生に練習はない。
- ・いい人生を歩んでいる人間には”志”がある。
- ・素朴でもいい。心にしみる生き方や、人間の事実行動や、今まで気づけなかった人のぬくもりに、感性や思い、そして知の心を向けてもいいだろう。
- ・人生で尊いもの—「愛」と「勇気」と「献身」。
- ・何か大きいことをしようとする、何もしないで終わってしまうから、身近な出来る事からやっていく。
- ・人間は「悪魔」から「神」にまで何にでも近づけるのです。自己変革能力を持っているのは人間だけです。
- ・人間には本来、強い強い自浄力があります。自己抑制力も、共感能力も、問題解決能力も自己変革力も内在しています。
- ・生命力・意欲を発揮し続けられる人間、自分で緊張感を作り出せる人間が『勝つ』ことができるのです。
- ・「人生の目的」は“人格の向上”だよ。
- ・常に我が人生観を磨かなければいけないのです。社会観や世界観も改善し続けていかねばなりません。子ども観や教育観、学習観や生活観を高めなければならないでしょう。
- ・努力しつづけることを、しっかりと自分のものにした者が、人生に勝っていける。
- ・”自分”の完全なる自由を求めて欲しい。
- ・「先生頑張ってください」でなく、「自分が頑張ります」と言ってほしい。
- ・採用試験なんか、100個落ちても、1000個落ちても恥ずかしくなんかない。それによって鍛えられるんだ。(入社試験に落ちて沈んでいる人に)
- ・「生きがい」とは、一瞬一瞬、仕事も遊びも全てに一生懸命に生きる人。
- ・のめり込むことがなければ、ひとつの価値を生むことはできない。
- ・「生きて、生きて、生き抜け！」=生きて、生きて、生き抜くことで、充実した死を迎えられる。
- ・人間は、何があってもくじけないで、諦めないでやること。達成するまで、ギブアップしない。
- ・「教育は死ぬか、生きるか、真剣勝負」
- ・入魂なしの教育はない。教育とは、魂の打ち合いである。
- ・教育は、「忍耐」「努力」「愛」。
- ・「愛情」には4種類ある。親子・兄弟など「肉親の愛」。男女の「エロスの愛」。「友情・友愛」。人類愛・隣人愛など「アガペの愛」と言われるもの。人間には、全部必要。
- ・「良いことは良い」「悪いことは悪い」とはっきり言える勇気。
- ・どうしたら人の心をつかめるか。「誠実・真実」。
- ・「人間は、自分を必要とする人が一人でもいなければ生きていけない」
- ・「念ずれば花ひらく」。悪い思いは、花を散らす。

- ・「信じられている」「評価されている」「愛されている」と自らが直感し、それが自らの努力と工夫によってもたらされたものだと思いますと、ますます努力することが好きになります。

学ぶこと創造することの天才になっていくわけです。

- ・不自由がない世界がもしかりにあったとします。そうしたら人間の本能や、愛や、創造力や、大きさ、豊かさ、賢さは決してその翼を広げようとはしないでしょう。
- ・「悪いことしか想念しない人は、消滅してゆく」という学者がいる。
- ・利他を考えられる人が賢人。自分の事、目先の事しか考えられない人が愚民、というたて分けもできる。
- ・お金をもらう時喜ぶ人は多いが、支払う喜びもある。その陰には、喜ぶ人が必ずいるからだ。
- ・他人の為にお金を使える人は、お金持ちになれる切符を手に入れたことになる。

- ・「**活私奉公**」これからは「私を滅ぼす」のではなく、「私を活かして」公けに奉仕する時代。

- ・天はその人の行為を見ているのではない。**何をしたか**でなく、**何を思っているか**と

**いう”心”**を見ている。そして、その人の”福運の量”を決めている。

- ・人に気を遣われたり、尽くされて喜んでいる人は、”生命の因果”を知らない。それはただ、自らの福運の貯金を減らしているにすぎないことを知るべきだ。
- ・「仏」とは、人格的輝き。生きていところで考え、力・エネルギー・思考・センスに変えている。生活に連動しないことは、観念でしかない。

- ・**感謝心を持っている人間は無限に伸びる。**

- ・精神公害。日本人は考えない国民になってしまった。
- ・日本という国からしぼり出されるエキスの中に、未来を壊し、本体を腐蝕させ、日本を食いちぎる毒性を秘めている部分を否定することはどうしてもできないようだ。
- ・これからの十年。自由化、複雑化、多様化、エゴ化。本物が出てくる時代。悪魔と神仏が並行して居る。
- ・計算の無い人間は責任感がないことになる。それに伴う美点があるかどうか。
- ・物事を”逆手”に取りましょう。「逆手の発想」。

- ・「**自分を豊かにする為に学問を**」きわめて大事なこと。

- ・知的に生きるとは、理想に生きるということ。凡人はすぐに現実（利害と打算、欲望、妥協）の中に埋没してしまう。理想を持つことの尊さ。

- ・父はよくお葬式に連れていってくれた。死に顔をよく見なさいといわれ、見せてもらった。燃えて、燃えて、燃え尽きた人の顔は、生きていた時よりも白くてきれいなんですね。お骨も真っ白。私も死んだとき、雪よりも真っ白いお骨になりたい。超善人になって、きれいになって死にたい。

- ・**一流の人は、人の悪口を言わない。愚痴を言わない。嫌なこと・辛いことを人に**

言わず心の焼却炉でそっと焼いてる。そして他人には、春風のように接する。

- ・善玉ストレスの強い人：愛、希望、喜び、情緒、思いやり、楽天的、未来志向、感謝の心の強い人。



悪玉ストレスの強い人：悪口、失意、怨念、愚痴の人。病気・癌になり易い。

・言葉に出すと、記憶力は、540倍良くなる。

・**転んで立ち上がった人間ほど魅力がある。恐れなければいけないのは、転んで立ち上がる意志のないことである。**

・人が転んだ姿を見て冷笑している人を、ときどき見かけます。私はこういう人は、何の為にこの世の中に出現してきたのだろうと不思議に思います。たとえ、つまずこうが倒れようが、自らの足で大地に立ち、自らの精一杯の力をふりしぼって自らの人生、自らの課題に立ち向かっていくのが「生きている」ことの証ではないでしょうか。

・「競争」は他人とするのではなく自分とする。昨日の自分より1ミリでもいいから進化したい。

・春が躍動の象徴なれば、秋は知性の季節である。夏が情熱の乱舞なれば、冬は鍛錬の季節である。

・大人とは、問題提起の嵐を、独力で突き抜け、“これで生きる”という一定の“生きる指標を持ちえる者”をこそ、“内的動因”によって、大人と規定したらいかがであろう。

・自らと戦うことを忘れた者に、次の社会を委ねることはできない。

・「指標」とは、坐して動かぬものには永久に培われまい。「何かをする為にこの世に出てきたんだから」と、目をらんらんと輝かせるものにしか、なじみきるものではなからう。

・人生は、「選択」と「決断」の連続。

・「悩もうが苦しもうが呻こうが、生き抜き、努力し“高まりたい”“高めたい”と、もがいても、やっぱり“生きることが無限に嬉しい”との実感」を子どもに自然にひびかせていくこと以外にない。

・一体どうしたら人は幸福になれるか、真剣に考えつめない人間が幸福になれるわけがないのです。

・自分の為だけを考えるのは、悪人と規定できるかもしれない。聖人君子でなくて良い、100%のうち、たとえ51%でも善の方が多ければ良いと思う。

・誰かが犠牲になるというのは良くない。自分を犠牲にするのも悪い。

・落ち込みからでなければ学べないものがあると自覚する人間は強い。

・人生に無駄は、決してない。

・人間が生きるということは、生きて生きて生き抜く雑草のような意欲こそ肝要。

・獅子は、蟻の子一匹獲るのでも全力で当たる。すべてに全身全霊、命がけで生きる。

・損得の価値基準を切り捨てることは無理であろうけれども、「真・善・美」価値を根底に持ちながらの振る舞いでなければ、人類は永く栄えていくことはできない。

・「最高の欲望とは、“利他”と“自己完成”という花を、

自己表現の過程で、らんまんを咲かせていくことではないだろうか」

・人生に、大輪の花を咲かせて下さい。

## 濤川栄太が好んだ言葉

・「私には夢がある」(キング牧師)

・「世界がぜんたい幸福にならないうちは個人の幸福はあり得ない」(宮澤賢治)

・「川流るるが故に水澄む」

・「今から、ここから、自分から」

・「天はその人が欲するものより、その人に必要なものを与える」

・「天は自ら助くるものを助く」(ヨーロッパの諺)

・「念ずれば花ひらく」(坂村真民)

・「命は価値あるものの為を使う」(ロバート・ケネディ)

・「愛ありてこそ」

・「誠実に徹する時、人生に恐るるものなし」(トルストイ)

・「人生において、その人に乗り越えられないものは来ない」

・「子どもを不幸にするいちばん確実な方法がある。

子どもの欲求のままに欲しいものを与えることだ」(ルソー)

・「人間は人間によってしか教育できない」(ルソー)

・「人間は存在自体が目的である」(カント)

・「人間心理を知りたければ、児童心理を学びなさい」

・「教育とは、生きる力をつけること」(エレン・ケイ)

・「人生に関することで、私に無縁のものはない」(ティリントン)

・「少年よ！志を抱け」(ウィリアム・クラーク)

・「癖が習慣をつくり、習慣が性格をつくり、性格が運命を左右する」(ヒンズー教の教え)

・「他人の犠牲の上に、自分の幸福を築いてはいけない」

・「自分のことだけしか考えない人間は、教養のない人間である。

たとえ、どれほど教育を受けても、教養が身につかない人間である」(ある学者)

・「悪に悪を返さず、善を行うように心がけなさい。出来得れば、彼の幸福を祈りな

さい」(主意。セントパウロ「ローマ人の使途へ」より)

・「雲の相違、上手下手のちがいは下界から肉眼で見た星のようなもので、ほんのわずかと思っても、実際は何万光年も隔っているものである」(三遊亭円生)

・「哲学とは、死を迎える心の準備をする学問」(プラトン)

・「幸福とは幸福をさがすことである」(ジュール・ルナール)

・「この地上における我々の立場は、旅人のようなものである。我々のだれもが、しばらくのお客として地球を訪れるのだが、なぜそうなるのか知らない。もっとも時には、その目的がわかるような気がするこ

もあるけれど。それは、**人間は他の人間のために、この地上に存在する**ということである。

——楽しみや幸福を共にしている親しい人々はもちろん、また同情という絆で結ばれている無数の未知の人々のために——」(アインシュタイン)

- ・「人生に必要なのは、勇気と想像力と少々のお金」(チャップリン)
- ・「真の勇気は、平然として事のおこるのを待つということにはない。むしろ一刻も早くそれを知ろうとして馳せむかう、そしてそれを甘受するところにある」(マルタン・デュ・ガール「チボー家の人々」)
- ・「天才とは強烈な忍耐者」(ナポレオン)
- ・「志のない者は、魂のない人間に等しい」(吉田松陰)
- ・「願わくば、我に七難八苦を与え給え」(山中鹿之介)
- ・「逆境こそ最高の教育」(ディズレーリ)
- ・「死ぬまで生きるなり」(武者小路実篤)
- ・「千万人と <sup>いんど</sup> 雖も吾往かん」(孟子)
- ・「夢見る力のない人間は、生きる力もない」(エルンスト・トラー)
- ・「まづもろともに かがやく宇宙の微塵となりて 無方の空にちらばろう」(宮澤賢治)
- ・「やり給え。そしてやるからには最も正統的な勉強を積んで、最も本格的にやり給え」(山田耕作)
- ・「才能とは軽やかなものではない。ふざけるといようなものではない。根本において**才能は欲求である**。理想についての批判的な知識である。**苦悩によって、初めて能力を作り出して高めてゆく容易に満足しない気持**である」(トーマス・マン『悩みのひととき』)
- ・バリ島には、「愛する」「美しい」という言葉がないという。「愛する・美しい」は言葉ではない。
- ・「あれになろう、これになろうと焦るよりは、黙って自分を富士山のように動かないものにつくり上げてしまえばそれでよい。あとは世間が値打ちを決めてくれる」(吉川英治「宮本武蔵」)
- ・「人は水すましのように浅く生きることも出来るが、深みで生きなければ、現実との関係も深まらず、この世を深く理解することも出来ない。自分の人生を築くということも出来ず、この世の恩恵を大きく受けることも出来ない」(藤原審爾)
- ・「人は人によってしか磨かれない」
- ・「猿が人間になったのはなぜか？」それは「その気になったから」。
- ・「この世界に唯ひとつだけ どうしても 滅びてほしくない民族がある それは日本人である 日本人は太古の昔から じつに素晴らしい文化を築きあげてきた 日本人は貧しくとも高貴である」(ポール・クローデル)
- ・「人間は幸福というものにはどこでいつ会えるものかわからない。しかし運というものは、人間をとおしていつでも僕たちを見ていてくれると思っ<sup>て</sup>まちがいないと思う。大事ななのはその

人の誠意である。」(武者小路実篤)

・「寒さにこごえた者ほど太陽の暖かさを知る。人生の苦悩をくぐりぬけた者ほど、  
生命の尊さを知る」(ホイットマン)

・「夕暮れを、一日がそこに死んでゆくのだと思って眺め、朝を、すべてがそこに生まれるのだと思ってながめたまえ。君の視覚が一瞬ごとに新しくあるように。賢者とは、すべてに驚嘆する人のことだ。」(ジイド)

## 濤川栄太の逸話・シークレットキャラクター etc...

### ・濤川先生の自己紹介

「蔵前から来ました」

「濤川の濤は、怒涛の海の濤。海と川と太陽——宇宙が栄えるようにと父が付けた。

(学校の) 子どもたちは、栄養で太る、と言っています」

「非常に短所の多い人間です」

「父親から『栄ちゃん、そんなわがままな人間は、人に好かれなくて生きていけないよ』と言われました」

「自然科学は、不得意です」

「一日一回、今日の自分を、100%の自己否定と100%の自己肯定をして、反省しています。自己否定だけだと、自殺しかなくなりますから」

### ・シークレットキャラクター (1993年当時・作成：塾生有志)

〔体つき〕 身長：183cm 足の大きさ：27.5cm 頭のまわり；70cm

体重：90Kg 以前は125Kg 35Kgの減量に成功。80Kgを目指している。

〔髪型〕 天然パーマ。美容院よりうまくかかっている。

〔血液型・星座〕 A型・さそり座

〔モットー〕 いかなる場合も、手を抜かない。全力投球。

〔教育的目標〕 子どもの自殺をなくしたい。

全世界が子どもの喜びで、キラキラと輝く世の中にしたい。

〔個人的欲望〕 「死んだとき、お骨が雪のように白くありたい」こと

その為に、完全燃焼して生きる。

〔注目点〕 男女、年齢、肩書、職業を問わず、全世代から慕われている。

すごいパワーでまわりの人を元気にする。

〔音楽〕 クラシック、シャンソン、ラテン、ハワイアン、賛美歌、ニューミュージック、演歌からプレスリーまで幅広い。

〔趣味〕 人生すべて。

〔ニックネーム〕 大仏。ベートーベン。エイ・タドン、濤セン。スーパーマン。怪物。

〔原点〕 絶対・無限・永遠の幸福とは、の追求。

〔短所〕 いっぱいありすぎて書ききれない。

〔長所〕 あまりにも多すぎて書ききれない。

〔好きな事〕 読書。勉強。原稿書き。

人にご馳走する事。（「おいしい！」と言われたら最高に嬉しい）

〔好きなもの〕 寿司。ビール（麒麟の「一番搾り」）。

ネクタイとカフスには、かなり凝る。

タバコは周りの人への害を考え、やめた。

真紅の薔薇。富士山。太陽。海。

〔好きな人〕 坂本龍馬。高杉晋作。吉田松陰。ロマン・ローラン。大石良雄。日蓮。若き日の信長。

マルセル・プルースト。カフカ。ヤスパース。ハイデッカー。ビビアン・リー。キム・ノバク。山頭火。宮本武蔵。ブルーノ・ワルター。宮澤賢治。シラー。ユング。ペスタロッチ。常不軽菩薩。アル・パチーノ。マーロン・ブランド。ゲーリー・クーパー。濃姫。

「罪と罰」のソーニャ。「風と共に去りぬ」のスカレット・オハラ。エバ・ガードナー。

ジョン・F・ケネディ。R・ケネディ。ロック・ハドソン。ハンフリード・ボガード。

浜口雄幸。長嶋茂雄。石原裕次郎。品位とあたたかみのある人。きれいに生きようとする人。とにかく基本的に人間好き。

〔父親の言葉〕 「男は自分が水を飲んでも、他人に奢りなさい」

「国宝を見分けるには何度も贋物をつかまされ、血尿を出しながら分かるようになるのだ」

「人生辛いことがいっぱいあるけど、大石良雄の気持ちになりきると良いよ」

「自由に生きなさい。責任はすべて自分がとるしかないのが人生だ」

「他人の苦勞の分からない人間にはなあってほしくない」

「世界に不幸がある限り、我に幸いはない」（主意。宮澤賢治）

〔母親の言葉〕 「塩をなめても、人様への義理は果たさなければいけません」

「悪いことをしたら、お母さんは喉を突いて死にます」

「オリオンまでもカシオペアまでも伸びてね、栄ちゃん」

## ・あらためて、濤川先生を評すると…！？

- ・ 0歳から100歳までが同居している人。
- ・ 子どもは1分、大人も5分で、心を開く。
- ・ 人と人を繋げる天才。

- ・人の心に火（灯・パトス）を灯す天才。
- ・教育相談の魔術師。  
抱きしめているだけで、自閉症が治った。  
抱きしめただけで、登校拒否児が次の日、学校へ行った。  
講演を聴いたお母さんが、「悪い母親だった」と反省して涙をポロポロ流して家に帰ったら、子どものチック症が治っていた。  
講演を聞いて、本を買っていった保護者の子がみな、次の日登校してきた。  
10年間親と口をきかなかった子と、電話で30分話ただけで、親に連絡をしてきた。
- ・先生と接していると、「嬉しい」「楽しい」「元気が出る」「希望を持てる」「日本にこんな人がいたのか！」「先生のようにになりたい！」「世の中に知らないことがあるのか？」「神仏みたい」「話が面白い」「魂の感動がある」「魂がふるえる」「目標がもてる」「自信が出る」「しあわせな気分になる」「食べ物が美味しくなる」  
政治家・「頭がクリーンになり、整理されてくる」「ブラックホールのように飲み込まれそう」  
経営者・「自分のやるべきことが次々見えてくる」「次の企画・商品が閃く」
- ・先生の短所を集約：短気。わがまま。見栄っ張り。かっこつける。贅沢。お金遣いが荒い。大風呂敷。数が大きい。怒鳴る。時間にルーズ。自分を通す。騙されやすい。お人よし。情に流される。さみしがり。せっかち。天動説の典型。何を考えているのか掴めない。
- ・先生の長所を集約：声がいい。歌がうまい。センスがいい。おしゃれ。信念が強い。愛情が深い。頭がいい。憎めない。諦めない。夢が大きい。ネバーギブアップの人。風呂敷を必ず包む。優しい。チャーミング・ガイ。笑顔がさわやか。一度会った人の顔を忘れない。志の塊。憂国の士。筋を通す。礼儀正しい。何事も天才的。義理人情の人。弁舌がうまい。ひとまねがうまい。天衣無縫。ニックネームをつけるのがうまい。笑わせるのが上手。迫力がある。大らか。スケールが大きい。
- ・歌のレパートリー：赤いグラス。青い星くず。明日は明日の風が吹く。逢えてよかった。熱き心に。あばよ。アドロ。亜麻色の髪の乙女。アマン。愛の賛歌。愛燦燦。アヴェ・マリア。いい日旅立ち。いちご白書をもう一度。粋な別れ。駅。踊り子。思いすごしも恋のうち。大阪暮色。思い出のサンフランシスコ。お嫁サンバ。嘘は罪。海その愛。思い出。俺は待ってるぜ。お前にゃ俺がついている。思い出のブランデーグラス。大阪。勝手にしやがれ。川の流れのように。カタリカタリ。枯葉。帰れソレント。刈干切り唄。悲しい色やね。北へ。聞かせて愛の言葉。勝手にシンドバッド。気分しだいで責めないで。北街角。北の宿から。京都の夜。京都から博多まで。空港。グッバイデー。紅の翼。狂った果実。恋は赤いバラ。恋の町札幌。恋唄つづり。恋人よ。恋は終わったの。恋のバカンス。小雨降る径。五番街のマリー。五月のバラ。悲しき口笛。恋人もぬれる街角。かもめが翔んだ日。秋桜。乾杯。ギターを持った渡り鳥。サライ。サントワマミー。サバの女王。しおりのテーマ。白いギター。失恋レストラン。時間よおまえは。スローモーション。好きにならずにいられない。砂に書いたラブレター。ジョニーへの伝言。出航（さすらい）。ザナドゥ。セカンドラブ。時間よ止まれ。さすらい。シークレットラブ。錆びたナイフ。そして神戸。スターダスト。さよならをするために。さよならをもう一度。白い手袋。ジェラシー。誰かが誰かを愛してる。旅人よ。ダニー・ボーイ。誰も寝てはならぬ。中央フリーウェイ。津軽海峡冬景色。TUMA

MI。つぐない。手紙。テネシーワルツ。東京。東京花売り娘。旅人よ。嘆きのメロディ。なごり雪。虹と雪のバラード。人形の家。22歳。泣かせるぜ。花と竜。パリの屋根の下。パシフィックホテル。バラ色の人生。パダンパダン。氷雨。ビギン・ザ・ビギン。舟唄。ブーメランストリート。ふれあい。ブルー・カナリア。ぼくにまかせて下さい。慕情。ぼくの妹に。ブランデーグラス。バラ色の人生。ママ。マイウエイ。マイフェア・レディ。待ってる女。マドンナたちのララバイ。みあげてごらん夜の星を。港の灯。無縁坂。迷い道。メロディ。モナリザ。モッキン・バード・ヒル。夢芝居。横須賀ストーリー。よろしく哀愁。夜霧の慕情。夜霧よ今夜もありがとう。ルビーの指輪。ラブ・アフェア。ラヴレターズ。ラストダンスは私に。リバイバル。別れの朝。私はピアノ。鷲と鷹。わが人生に悔いなし。ほか

・ 濤川先生の思い出…スタッフから。

・ 一人ひとりが皆本当に、大事にして頂きました。時には非常に厳しく叱られ辛いこともありましたが、それぞれの成長を心から思っていて下さっていましたし、気も遣って頂きました。

・ 原稿を書くスピードが速く、ふだん400字詰原稿用紙を1時間に12枚位書かれました。病気が快復した後も16枚という時がありました。書くことが追い付かないというようで、字はミミズが這ったよう。ご自分でも読めない時もありましたが、いわゆる、書き損ねて原稿用紙を丸めてポイというのは一度も見たことがありませんでした。

・ 先生は、「原稿を書く時に、何を書こうか考えるようになったら、筆を置くよ」と言っていたのですが、ついにそういう時は訪れませんでした。

・ 人と話す以外は、いつも活字を読んでいた。活字がなければ生きていけない程、本当に嬉しそうに読んでおられました。学生時代から授業を聞きながら別の本を十数冊机に積み上げて読んでいて、指されるとちゃんと答えていたと、親友の方から伺いましたが、私たちが報告する時も、いつも何かを読みながらちゃんと答えられ、聖徳太子のようでした。

・ 「読書量が10万冊を超えると、今まで読んだ知識がすべて繋がってくるんだよ」と、誰かの質問に答えられていました。100+100=200のものが、掛け算にすると10000になる現象が頭の中で起きているような、洞察力とか、判断力とか、推理力、推察力、直感力など修行僧が得るような特殊な能力が備わってくるというような感じでした。数人の方が、先生の頭の中を見てみたいと言っていたのですが、本当にそうで、書店に行くといつも10数冊買うのに10分位しかかかりません。並んでいる本棚の背表紙を見て取ってパラパラ見るだけでパッと決めてしまいます。「そんなに早くてわかるのですか？」と尋ねた時、「本の背が『読んでくれ!』と

「のように光っているからすぐわかるのだよ」。そして買ってきた本を読むスピードは、ただ1枚1枚めくっているだけに見えます。「斜め読みですか？速読ですか？」と聞くと、特別速読をやらなくてもページを開くと全体がつかめるといふ。本や雑誌など1日4～5冊と、新聞を5～6紙読まれていました。時々1～2カ月かけてじっくり読まれている本もありましたし、4～5冊併読されてもいました。なんとも不思議な読書法でした。

- ・資料調べの仕事をさせて頂いておりました。先生はほとんど資料を見ながら執筆されるのではなく、頭の中に資料が入っているようでした。原稿を書かれて、以前読んだものだからはっきり記憶しているか分からないから調べるように言われ、図書館へ行って調べてみると、ほとんど間違いがないので、いつも驚きとともにその記憶力に「凄い！」と感心していました。
- ・講演の内容は、地球の問題や世界情勢から、日本の状況、地域、家庭、個人…というように、鳥瞰図的な視野からミクロへの流れでお話しされることがよくありました。そうすると、視点がフォーカスされたように、だれでも今の自分とのピンポイントがぴたり合うような説得力を感じたのではないのでしょうか。
- ・「新・松下村塾」開塾の真意の一つに“人類生き残り”があります。ある時、「地球の問題は地球だけのことではなく、太陽系、銀河系にも影響していくのだよ」と言われました。その時は、驚きとともに、内心なぜ先生がそんな事がわかるのかしら？と、正直怪訝な気持ちもありましたが、最近読んだ書物の中でそのようなことが書かれているのを見つけ改めて、先見性というか、洞察力というのか、普通ではなかった！と思ひ返しています。
- ・「新・松下村塾」開塾の真意のもう一つは、政治家を育てること、発掘することがあったと思います。晩年、やむにやまれず「輝け日本！」という政治団体を立ち上げ、様々に活動されていましたが…、それが寿命を縮めたのではないかと思います。
- ・先生には、ごまかし・ウソが全く通用しませんでした。これは内緒にしておきましょう、と打ち合わせていたことも、必ず、徹底的に質問されると、話さなければならなくなってしまう。「不思議とピンポイントのように突いて来られる」のは何故だろうと皆でよく話しました。誰でも何度か経験しています。
- ・何ととっても、よく「大笑い」をしました。先生がお元気でいらした頃は、毎日事務所で大笑いしたものです。先生は何か面白いことを言おうとしていて、ご自分が可笑しくて、笑ってなかなかお話できなくなるほどのこともよくありました。

先生が事務所にお見えになる時はいつも、階段から笑い声か、歌声が聞こえて来て、「ああ、先生が見えた」と分かったものです。高杉晋作の「面白きこともなき世を おもしろく すみなすものは 心なりけり」とありますが、本当に先生は面白いことを見つけて笑わせる天才でした。

それまではあそこまで大笑いしたことはありませんでした。でも、今はもうあり



ません。頬が痛くなり、お腹がよじれる程で、もうこれ以上笑わせないで！という位の大笑いをしたものです。

・ 濤川先生には、人生の深みも、諦めないことも、大事なことをいろいろと教えて頂きました。先生のあの大らかさ、高さを思うと、今でも心が安らぎます。様々な活動の中では、妨害、中傷、いやがらせ、誤解など色々な事がありましたが、いつも一言も弁解・弁明されずに、全てを自らに引き受けて、悲しいこともストレスもいっぱいあったと思いますが、ただ黙々と「今から、ここから、自分から」を実践されていきました。濤川先生にお会いできたことは、私の人生の“宝物”です。

・ 野球が大好きで、とくに長嶋茂雄さんには、異常なほどでした。長嶋さんが監督をやめれば、新聞も止めてしまい、巨人以外全部を応援するという具合です。石原裕次郎さんと長嶋茂雄さんには強烈で、青春の熱い血たぎる情熱のシンボルだったのでしょね。

・ 「こんな苦しい、辛い病気は私一人だけでいい！」。病気が回復し、闘病記を書かれた時の言葉です。そして「自分でなければ耐えられなかつたろうから」とも。二度目の闘病では、もっと辛く残念だったでしょうが、常に前に向かって努力されていました。せっかちで、寂しがりだったのもあんなに寿命が短かつたのなら、仕方なかつたのかもしれないね。

・ 濤川先生のお仕事をさせて頂いたお陰で、社会で活躍されている“超一流の方々”にもお会いさせて頂くことができました。その共通点は、皆様まず優しいですね。ご自分には厳しいのですが、謙虚というか威張らないですね。本当の思いやりというのでしょうか、見守って下さっているという感じが伝わってきます。  
“天を相手にしている”？ “器”の勝負、なのかなと思います。

・ 小学校教師時代の“ユニークな教育法”に少し触れたいと思います。

チャンピオン賞もそうですが、そのほか個性的な授業をされていました。

- ・ 小学2年生の子どもたちに、ハイネやゲーテ、ホイットマンの詩集を読ませる。
- ・ クラシックの曲に、子どもたちに歌詞をつけさせ、クラスで歌う。
- ・ 「青の洞門」「ガンジー」「アンネの日記」などを寸劇にして、演じさせる。
- ・ 再生思考能力を育てるために、ドリルをたくさんやらせた。
- ・ 放課後、遅くまで補習をさせ、ラーメンを食べさせて家まで送ったりした。
- ・ 古典や名作文学をたくさん読ませ、クラシック音楽もよく聴かせた。
- ・ 夏には、海水浴…、などの課外授業も。

… その他いろいろ…。もっとしっかり聞いておけば良かったと思います。

・ 印象に残っているのは、「日本の上空にはジェット気流が交差しているから、世界中の空気の汚染が日本に降ってくる。地球上のどこかで行った原・水爆の実験も、すべてが日本に来てしまう。海流もそう。不条理な事でもあるが、だから日本は世界

を浄化する使命がある。環境問題を解決するために貢献しなければならないという立場にある」と語られた事です。

それから、石原裕次郎さんが亡くなられた時に参列されてある人から受けた質問。

「人は死んだらどうなるか」について宗教ではなく教えてほしいと言われ、

岡部金次郎さんの本を引用して「魂には、生命の核というものがあって、活性状態が生で、非活性状態が死である」と答えられたという話をお聞きしました。まだ始めの頃でしたので、この先生はどんな角度からの質問にも答えられるのだと、驚いたというか、畏れ入ったものでした。

・ 濤川栄太先生という個性の強い方に、よくぞ皆さん付いて来られましたね、と言われるこ

とがあります。確かに何度か辞めたくなることはありましたが、その支えになったのは、当初全国濤川会というのがあり、その会長にある時呼ばれ「私も剣道の権威の先生に長年仕えてきたから分かるのだが、それは大変だった。濤川先生もそうだと思うから、もし後で辞めることがありそうだと思いますら、今のうちに辞めて下さい。」と、引導を渡されたのです。その時の覚悟があればこそ…途中で挫折せず、何があってもとことんやって来ることができたと感謝しています。濤川先生に、日本・世界の将来と夢と希望を託し、私たちが多少ながらお役に立てたのではないかと思います、先生のお仕事をさせて頂いたことを光栄に思っております。